◎各ご家庭に配布しております。一部ずつお取り下さい。次号『まちかど』は令和７年６月発行予定です。
「まちかど」カラー版は、品川区ホームページからご覧いただけます。https://www.city.shinagawa.tokyo.jp/
裏面のQRコードよりアクセス可能です。

街角とあなたをネットする暮らしと文化の情報紙

まちかど

●荏原第一地域新聞●

第227号
令和７年（２０２５）４月発行
発行・事務局
◎荏原第一地域センター◎
小山3-14-1（〒142-0062）
TEL　３７８６－２０００

品川区功労者表彰 ～長年の功績をたたえて～

令和６年度の功労者表彰式が昨年10月きゅりあんイベントホールにて行われ、保健衛生功労の分野で、やまだ眼科クリニックの山田慎（やまだまこと）先生が森澤区長より表彰状を授与されました。

山田先生は、小山四丁目にクリニックを開業以来、20年にわたり嘱託医として近隣の小学校（小山小学校・後地小学校・荏原平塚学園・第二延山小学校）、保育園や幼稚園（中原保育園・小山台保育園・平塚保育園・荏原西第二保育園・平塚すこやか園）にて、眼科検診を毎年実施し、子ども達の目の見守りに貢献しています。

子ども達の様子や目の状態の変化について山田先生に伺いました。

「子どもの近視が近年増加しています。タブレットやスマートフォンの使用などで近くを見ることが増えている生活環境が関わっていると思います。幸いなことに将来失明につながるような大きな病気を持った子どもはいない状況です。視力低下を予防するためには、近くを見る作業の時間を決めたり、屋外で過ごす時間を作ったり、遠くを眺めたりすることが大切です。」と仰っていました。

山田先生は、今後も子ども達の将来の目を守るために、眼科検診を実施していくそうです。

功労者表彰、誠におめでとうございます。今後もますますのご活躍を祈念しております。

（小山四丁目・東　美佐栄）

やまだ眼科クリニック
山田 慎先生と表彰状

しながわ防災学校（地域防災ステップアップコース）に参加して

しながわ防災学校には「防災区民組織コース」として、地域防災「ベーシック」「ステップアップ」「フォローアップ」の３コースがあります。今回は、前回受講したベーシックコースに引き続き、ステップアップコースを受講しました。受講生は各町会から参加した６名で、２グループに分かれての研修となりました。

研修は、品川区の地図を用いながら「我が町の防災に伴う危険」を課題とし、その対策について議論し、発表する形式でした。私たちは、防災における自助・共助・公助の役割分担と、それぞれの抱える課題と対策などについて議論しました。また、避難所の設営や運営方法についても議論しました。

研修の中で、町会の重要な役割について学ぶことができました。それは、日頃から住民同士で良い関係を築けるよう、手助けをすることです。そして、そのうえで、有事の際には率先して、安否確認や情報収集を行うことです。他にも、地域防災拠点へのスムーズな情報伝達のための体制確保などの重要性についても、学ぶことができました。

改めて、町会の役割を考えるとともに、寺田寅彦の名言「天災は忘れた頃にやって来る」を思い出す良い機会となりました。（小山三丁目 防災士・澤田 俊一）

花めぐり

ハナミズキ

一青窈（ひととよう）さんの歌でも知られるハナミズキは、4月から5月にかけて白やピンクの花を咲かせます。4枚の花びらに見えるのは総苞片（そうほうへん）と呼ばれる葉の変形です。その中心に緑黄色の小さな花の塊である花序（かじょ）があります。やがて小さな花は次々と開花し秋には真っ赤な実をつけます。

ハナミズキ
令和6年4月
不動前緑道公園にて撮影

ハナミズキは1912年に当時の東京市長がサクラの苗木を米国に贈った返礼として贈られた木として知られています。東京都立園芸高等学校には当時の原木が百年ハナミズキとして唯一現存します。

東京都建設局のデータ（令和6年4月1日時点）によると、都内における街路樹の本数のランキングでは、国道・都道においては「都の木」であるイチョウが1位であるものの、道路全体ではイチョウを抜いて、ハナミズキが1位であり、その本数は約6万本です。

花言葉は「返礼」「永続性」など。（小山一丁目・河原　マサ江）

東京都小学校体育研究会　研究発表大会

東京都小学校体育研究会の研究発表大会が、令和７年２月21日に後地小学校で行われました。本校は令和４、５年度に東京都教育委員会体育健康教育推進校として、また、令和５年度は文部科学省教育課程実践検証協力校（保健領域）としても認定されていました。体育科では「体づくり運動」を中心に、健康教育では本校が長年にわたって取り組んできた立腰教育について、研究を進めてまいりました。研究の成果もあり、子ども達は、体育や休み時間以外でも、体を動かすことの楽しさを感じることができるようになりました。

今年度は、子ども達の主体的・対話的な学びの実現をめざして、東京都小学校体育研究会の研究協力校として研究を進めてまいりました。体育研究会の研究主題「自ら学び続ける力を、仲間とともに身に付けていく体育学習」を受け、本校の体育科教育における学習スタンダードである「後地スタイル」の確立に向け、『～「やってみたい・こうやったらできた・もっとやってみたい」の学びのサイクルを通して～』を副主題とし、実践しました。

研究発表大会の当日は、東京都内外の小学校教員、教員をめざす学生、大学関係者、本校保護者、地域の方など約５００名の来校がありました。全学級公開とし、今までの研究の成果を多くの方々に見ていただくことができました。来校者の方からは、子ども達がキラキラと表情を輝かせながら、友達と楽しそうに身体と心を動かしている姿に、多くのお褒めの言葉をいただきました。これからも子ども達が「体を動かすことが楽しい」「もっと運動したい」と感じられるように研究を進めてまいります。

（後地小学校　副校長・長谷川　実佐）

町会活動紹介

楽しかった荏原三丁目町会新春バス旅行記

令和7年1月26日に、町会長を含む46名が参加する、新春日帰りバスツアーが行われました。バスツアーの行き先は、佐野厄除大師、小山市イチゴの里、あしかがフラワーパークでした。このバスツアーは8年ぶりの開催であり、会長の挨拶では、企画の再開を喜ぶお言葉がありました。

バスの中では、お菓子やジュースが当たる、全員参加のくじ引き大会が開催されました。私も景品を頂き笑みがこぼれました。町会長と参加者との会話も弾み、楽しい時間でした。左窓からは富士山、右窓からは筑波山を眺めることができ、爽快な気分で蓮田SAに到着しました。SAでの休憩後、佐野厄除大師にて記念写真を撮影しました。皆で本堂を参拝し平和を祈願しました。次のイチゴの里に向かう道中、車窓からは野焼きの白い煙が立ち上るのどかな風景が見られました。イチゴの里の大型ハウスでは、甘いミルキーな白イチゴやとちおとめなど5種類のイチゴを堪能しました。その後、あしかがフラワーパークで美味しい料理を堪能し、花の公園を散策しました。まだ花の数は少なかったですが、満開の時期が想像出来るようなスケールに圧倒され、もう一度訪れたいという声も上がりました。あしかがフラワーパークは、樹齢160年の「奇跡の大藤」とともに、花と光の楽園として世界中に発信されています。沈む夕日が差し込む帰りの車内は、静寂に包まれていました。最後に会長の挨拶があり、私も平穏と幸せに感謝の心が満たされました。普段お目に掛かることのない方々と一日触れ合うことができ、町内に対する意識が変わりました。

佐野厄除大師での記念写真

（荏原三丁目・池田　晴夫）